

総合計画審議会 第3回市民教育専門委員会

- 日 時 令和5年5月31日(水) 午前10時～11時45分
- 場 所 市役所別棟2号館21～23号会議室
- 出席者 別紙委員名簿のとおり(委員10名中8名出席)
出席委員 伊藤恭子委員、井上夏委員、加藤勝委員、草島陽子委員、
櫻井田絵子委員、佐藤司委員、鈴木淳士委員長、成澤和則委員
欠席委員 酒井英一委員、照井和委員
- 傍 聴 1名
- 協議題等 1 委員の交代について
旧：鈴木郁夫 委員
新：成澤和則 委員(令和5年度鶴岡市小学校長会長)
2 協議
(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の素案について
→委員からの主な意見は以下のとおり
(2) その他
→委員からの主な意見は以下のとおり

(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の素案について

(委員)

- 子どもたちから、「学校の給食が美味しい。給食みたいなカレーや鹿児島鶏飯を作って」と言われる。市のLINEを活用して、レシピや情報を公開してもらえると嬉しい。一方で、給食には、苦手というか、美味しそうでないメニューもあるようなので、子どもたちにアンケートを取るなどしてほしい。
- (委員) 学校給食センターで出している「給食だより」に、トピックで紹介していたと記憶している。作り方なども掲載すれば、保護者とも共有できるので、検討いただきたいと思う。
- (委員) 学校給食のレシピは、子どもとの接点が非常に近いので、家庭でも生かされればそれに越したことはない。私も興味があるので、学校給食に関わるものは、次回の専門委員会でお話いただいて宜しいか。
- (事務局) この計画に書き込むかということはあるが、すぐに対応できることもあるかと思うので、給食センターと相談させていただきたい。

(委員)

- 学校と地域の協働の取組みは、今どのくらい進んでいるのか。
- (委員) 令和5年度新たにコミュニティスクールに取り組むところを含めると20校、18協議会と聞いている。
- 学校に配置されているスクールカウンセラーは、どのくらいの頻度で来られるのか。

→ (委員) スクールカウンセラーは市で2名配置しており、小学校担当1名、中学校担当1名である。また、中学校には県の教育委員会が配置するスクールカウンセラーが全部で11名いる。

(委員)

○主な施策で、「中高一貫教育校「県立致道館中学校・高等学校」への地域の特色を生かした教育課程の展開にむけた要望」を追加しているが、来年度の開校に向け、市教育委員会でもこれまで十分要望はしてきたと認識しているので、敢えて後期計画に入れる必要あるのか疑問に思った。

→ (事務局) 地域の高等教育機関の方々、あるいは経済界の方々からも致道館中・高に対する期待が多い中で、いろいろなご要望をいただいている状況にある。開校してからも、市として県教委などに意見を伝えていくことがあると思う。計画の書きぶり、内容についてはなお精査させていただきたい。

○中学校の部活動の地域移行を計画に取り入れたことは評価したい。今年度から中学校の休日における地域移行に取り組んでいて、様々な課題はあると思うが、やはり一回スタートして、課題を解決していくことが大切である。ただ、中学校部活動の全てを移行するのではなく、休日部分かと思うので、文言の整理をお願いしたい。

→ (事務局) 国の流れがどうなっていくのか不明確な中で手探りの部分もあるが、ご指摘のように、文言を整理し、修正させていただく。

(委員)

○総体的にこの計画そのものは評価したい。修正の内容も良い。

自主防災を含め、自治会として今頭を抱えているのは、後継者としての地域の役員のなり手がいないことである。ある一定の人が十数年近く役員をやっているという現状を如何に打破するかは私どもの仕事であるが、それを真剣に考えていきたい。特に、若年層がコミュニティから離れている現状を非常に重く受け止めており、私どもも考えてみるが、その辺も一項目として考えていただけるとありがたい。

○どこの地域でも消防団員の確保に苦慮していると思う。私どもの地域では、団員数は揃っているが、地域を出てしまった人も名簿に入っているなど脆弱になっており、その辺について消防本部から内容を精査・把握いただきたい。加えて、サラリーマンの消防団員も多く、日中の発災時、消防団員は地域にほとんどいない。消防協力員から協力をいただき対応しているが、消防団組織が非常に脆弱化していることを強く申し上げたい。

→ (事務局) 消防団員の確保は、大きな課題として取り組んでおり、いろいろな検討会などを立ち上げ、細かい点まで話をしているところである。消防団員の負担軽減を考えながら、魅力ある消防団、やりがいのある消防団を目指し、広域化、広域的な消防の維持を図りながら、今後も取り組んでいく。

(委員)

○洪水の危険性が高まった時、第五学区の鳥居町、切添町、朝陽町、宝町の避難所はマリカであるが、東高校前から駅方面に向かう都市計画道路が宝町のローソンのところで途切れており、防災と都市計画道路の整備も一体で考えてほしい。加えて、小学生も遠回りして通学していると聞いたので、通学路の問題もぜひ考えていただきたい。

→(事務局) 第五学区・第二学区は、避難所が足りない状況にあり、基本的には民間施設の協力をいただきながら、一時の避難場所として開設できるように協定を進めていきたいと考えている。暮らしと防災(2)アの1つ目になるが、避難所の充実・拡充みたいところで、もう少し分かりやすく謳っていききたいと考えている。

○主な施策に、機会の提供とかプログラムの提供、環境づくりとあるが、老若男女それぞれがスポーツを続けてもらうように、もっと細かく分かりやすい施策の書き方をお願いしたい。

→(事務局) 今回全面的に表現を改定し、市民一人ひとりが担っていくという部分と社会全体として求めていく部分ということで、担当課でもどういう表現がいいか、かなり踏み込んで議論している。ご指摘があった誰にでも分かりやすさというところも含めて、今後骨子を固めていく中で整理させていただきたい。

○豊かな自然のなかでの子どもの育成は、大変素晴らしく大切なこと。主な施策にも、積極的な提供とあるが、もっと具体的をお願いしたい。鶴岡は金峰少年自然の家やほとりあなど良いところもあるので、その活用の仕方なども入れてほしいと思う。

○ある町内会の役員をしている方が、「町内会長や役員のみならず手がなく、組織運営が厳しくなっており、今後どうすればいいか大変な問題である」と話されており、本当に切実であると思った。(イ)の主な施策の3つ目の施設整備と4つ目のデジタル化などは、お金で解決できるので分かりやすいが、1つ目のコミュニティ組織への支援とか2つ目の町内会・住民会等への支援は、もう少し踏み込んで進めていく重要なことであると思う。

→(事務局) 各コミュニティ組織の役員のみならず手不足は、課題であると認識している。自分たちの地域をどうしていくのか、自分事として地域づくりに関わることが出来る地域ビジョンの策定は重要であり、施策として、財政面の支援のみならず、職員として関わっていくような取組みも行っている。また、ビジョンを作って終わりではなく、その実践部分の支援も今回の計画案には盛り込んでおり、踏み込んでいきたいところである。地域の中でいろいろな関わりを持つことによって自分事として感じてもらって、次の役員なり地域を支える人材ができてくればと考えている。

○市民憲章は、皆で作ったまちづくりの指針である。担い手がいないとか、若い人が参加しないとかいろいろあるが、まちづくりに関心を持ってもらうためにも、市民憲章の活動を市民一人ひとりから理解・実践していただき、気づいてもらうことが地域で活躍できる人づくりにも繋がっていくのではないかと思う。

(委員)

- 庄内は高等教育機関が結構集まっている地域であり、話題も多種それぞれあって、恵まれている。高等教育機関は設置目的がそれぞれ異なるため、簡単には連携できないかもしれないが、もっと市民から高等教育機関の教育や研究に関心を持ってもらえれば、鶴岡市とか庄内のために、地元で関心が高い分野の研究などで連携できるのではないか。それを仕掛けられるのは、地域の自治体であると思う。
- 主な施策の2つ目に「高校生を対象とした、次代の生命科学やバイオ関連産業を担う人材の育成」とあり、この計画が出来たころは非常にトピックな話題だったと思うが、これからは情報産業や、鶴岡の強みである製造業技術などに子どものうちから関心を持ってもらいたい。高校生だけでなく、中学生など若いうちから対象とし、次代の生命科学や情報産業、ものづくり産業を担う人材の育成というように幅広く捉えてはどうか。
- カーブミラーの適切な維持管理は重要と考えている。運転手の目線から見たカーブミラーの角度なども点検してもらいたい。併せて、冬期間、信号機に雪がついて、赤なのか青なのか分からない箇所もある。雪のときの信号の見やすさとか、氷がくっつかない仕組みなど可能であれば検討いただきたい。

(委員)

- 前回までの審議内容を反映していただいた箇所を確認し、今回の改訂案を大変評価している。具体的な施策につながることを望んでいる。
子どもの教育と地域とのつながりの本質は、故郷を思う心を育み、将来の地元回帰や地域定着につながると思う。その点で食は重要なテーマであると考え。地元住民と関わりながら子ども達が体験的に学ぶ取組みを実験的に増やして欲しい。
 - 「関係人口」を「リピート訪問客、UIターンの将来の候補者」と捉えた視点で増やしていけるよう、今後も体験型で交流型の施策を望む。そのイベント情報がどのように届けられるかも重要だ。チラシ、ネットで制作するだけでなく、誰に運んでもらうかを考えた発信の流れをデザインする必要性を思う。その一例として、従来からの対面的で強いつながりがあるふるさと会や交流都市等のつながりを有機的に生かし、第二世代を連れて巻き込んでもらう流れを意図した構想を望む。
 - 放置され周辺に害を及ぼす危険な空き家に関する問題で、国が固定資産税を4倍まで増額する方針などを受けて、各自治体での特色ある取組みがテレビで話題になっていた。鶴岡市では、どのような補助があるか。民間を巻き込むような能動的な解体促進策を望む。
- (事務局) 市の危険空き家対策補助金は、個人型と地域型と2通りある。個人の負担もあり、また市の予算もあるため、一度に解決するようなものではないが、個人型は50万円、地域型は75万円の補助である。地域型は自治会で実施する場合に支援するもの。

(委員) ※欠席。事前に送付いただいた意見を事務局代読

- 文化遺産として、ア伝統文化と文化財、イ歴史資料、ウ地域の歴史文化遺産、エ文学資料が挙げられているが、改めて鶴岡の文化資源を考えると、海や川、山、樹木、動植物など自然や景観もある。その中で、価値が高く重要なものが名勝・天然記念物・文化的景観として文化財指定されている。市内にもこれらの指定物件があり、また、指定をされていなくても地域の誇りとしている自然や景観があるので、これを保存・継承・活用するに、これらの文言をもう少し入れる必要があるのではないかと思う。

(委員)

- 学びと交流(2)地域における人づくりの推進のイにおいて、「社会教育活動の推進」が「市民の学びや地域づくり」という言葉に置き換えられている。私の印象として、市民の自発的な学びを重視して、行政はそれを条件整備することに重きを置くのかなという印象を持った。私どもの年齢からすると、場所と企画があって、そこに乗るとい印象が強いが、いよいよそういう自発的な活動を前面に出して、いい方向に向けていくことが必要なかなと思っている。
- 鶴岡市と鹿児島市、鶴岡市と木古内町というように都市交流が行われているが、この関係性をもっと活かさないかと考える。今はメールやネットなどいろいろな発展素材があるので、交流に円卓会議みたいな性格を持たせて、物産とか人的交流、総合的な交流をもっと前面に出せないかと感じている。既にやっているのであれば、後で教えていただきたい。

(委員)

- スクールカウンセラーは2名いらっしゃるとお聞きしたが、ずっと同じ方であるか。
→ (委員) 中学校には県の教育委員会から2名ぐらいのスクールカウンセラーが配置されているし、市のスクールカウンセラーもいる。カウンセラーの方と合わない場合は、学校や市の教育委員会に相談いただければと思う。

(2) その他

(委員)

- 大事に育てられた子どもは絶対に地域に戻ってくるし、戻ってこられないにしても、地域のために働きたい・協力したいと思っている。この土地の魅力を大人がもっと伝えていくのが大事であり、子どもが安心して過ごせる環境も必要である。今は核家族化が進んでいたり、子ども自身も生きにくい時代になっているが、地域が協働して子どもを大事に育てる環境になることを願っている。